

令和6年度 第15回白山市ミライ会議【概要】

日 時 令和6年9月24日(金)19:00～20:00

場 所 福祉ふれあいセンター 2階大会議室

テーマ 【子育て】 子育て世代が住みたいまち

出席者 10人〔保育所・認定こども園等の保護者会〕



◆小学校の児童数に見合った学童クラブの定員枠の増員を

(出席者①)

私の子どもは、第1子が小学校2年生で、第2子が年長児です。第1子の小学校入学時の児童数が80人、今年度は120人、来年度は100人になると聞いています。現在、小学校校区内の学童クラブはすでに入所人数がいっぱいで、定員枠60人を超えての受け入れは保育場所や人員が不足しているため難しい状況のようです。来年度には、第2子も第1子と同じ学童クラブに入所させたいと思っていますが、同じ園や他の園の保護者も入所を希望していて、入所枠が少なすぎるため、学童クラブの先生からは、現在の在園児数でも賄えないと聞いています。この問題について、市の対策をお聞きしたいです。

(市長)

小学校2年生で80人の場合、通常35人学級のところ、入学時は30人学級だったと思います。他市町では35人学級ですが、白山市では1年生のみ30人学級を実施しています。

2年生80人が学童クラブを利用するとなると、その時点で定員数を上回ってしまうので、その点は不安を感じられるかと思います。市は、学童クラブに対して運営委託料という形で財政的な支援を行っています。ただ、指導員の増員など、学校とは異なる運営面での課題があります。児童数増加による学童クラブの増改築は、東明小学校と広陽小学校の2校区で行いました。土地区画整理事業に伴う宅地造成など、地区ごとの人口増加に合わせて、保育所の新築なども行っています。

(保育こども園課長)

学童クラブの定員については、国の基準に従って一人当たり1.65平方メートル以上の面積を確保する必要があり、各クラブにはそれに合わせた運営をお願いしていますが、現状、各クラブにご無理いただいている状況です。今後、支援員がどれぐらい必要か、どの程度受け入れできるか調整していく必要があります。東明小学校校区のクラブは、松任小学校区以上に増えて

きていて、これ以上増加する場合は対策を考えなければいけないのが現状です。

(市長)

保育所や学童保育への要望が非常に増えているため、今後の協議が必要だと感じています。狭い環境では子どもたちにストレスが溜まり、また、担当の先生や支援員にとっても多くの子どもを一人で保育することは大変であるため、今後これらの課題について考えていきたいと思っています。

(出席者①)

現在、おもちゃや本が置かれているスペースを調整して、新たに子どもたちを受け入れる計画が出ています。また、認定こども園の2階に空き教室を設け、学童の子どもたちを受け入れる案も検討されているとも聞きます。こども園には乳児から年長児までが在籍していて、本来は本を読むためのゆったりしたスペースや体を動かすための場所が必要だと思いますので、そうした環境は大事にしてほしいです。

◆長期休暇中一時的に利用できる支援があれば、学期中の入所人数を減らせるのでは

(出席者②)

小学校3年生の子どもが学童クラブを利用していますが、次年度の入所をどうするか毎年考えています。通常、授業が終わって午後3～4時に帰宅するため、1～2時間の留守番は問題ないと思っていますが、夏休みなどの長期休暇中は一日中留守番をさせることが難しいため、クラブに入所させています。毎年、この時期に学童クラブから次年度の入所意思確認の通知があり、長期休暇のみの利用の場合でも通年入所を求められます。夏休みなどの長期休暇だけでも一時的に利用できるような子育て支援があるといいと思います。

(市長)

夏の時期になると、学童クラブの利用者が増加するため、近接する学校の体育館や校庭を利用できるようにお願いしているところもあります。ただ、借りられないクラブもあり、その場合は受け入れの制限を余儀なくされています。

長期休暇の場合、ご夫婦で仕事をされていると、お子さんの食事の世話などが大変ですよ。

(出席者②)

小学校3年生では、食事を作って1人で留守番をすることはまだ難しいので、学童クラブに入所しています。こうした課題が解消されれば、学期中の入所人数を減らすことができるメリットがあると思います。

(市長)

そうしたニーズは確かにありますが、長期休暇の場合、先生の配置と場所の問題があります。一応、長期休暇のみでも預かることになっていますが、すでに入所している方を優先するという学童クラブの方針があり、長期休暇のみの利用だと優先順位は下がると聞いています。

◆他県の取り組みを参考に、ワークショップ等で子どもたちの体験格差の解消を

(出席者③)

こども園の保護者からの意見として、子どもたちが行事やワークショップを通じて体験する機会を増やせないかという意見がありました。白山市には自然を生かしたワークショップや体験が多くありますが、プライベートで参加する機会がない子も多く、体験の格差をなくせないかというものです。具体的な方法として、例えば、富山県の「孫とお出かけ支援事業」では祖父母と孫が一緒に出かけると、施設の入館料が無料になるサービスがあり、長野県でも、子どもたちの体験を促すポイント制度があるそうです。そうした良い取り組みを取り入れてはどうかという提案がありました。

また、最近できたトレインパークを市民は無料で利用できるようにするなど、無料の施設や遊び場の要望や、雨の日に遊べる場所が少ないとの意見もありました。

(市長)

雨の日などは、どんなところに行っているのですか。

(出席者③)

少しお金を払って1日中いることができるようなゲームセンターや、加賀市の「ニコニコパーク」にも行きます。雨の日に行きたいと思える遊び場自体が、県内では少ないです。

(出席者④)

かほく市の「かほっくる」は、古い体育館を改修した施設で、無料で外でも遊べます。古く使っていない体育館を改修したというのがいいですね。

(市長)

「かほっくる」を視察しましたが、子どもを一日遊ばせられる場所だと思いますし、加賀市の「ニコニコパーク」も同様です。金沢市の「あめるんパーク」、小松市の「航空プラザ」、津幡町の「もりのひみつきち」などもあります。

雨の日の子どもたちの遊び場については、以前から多くの意見をいただいていた、その点はとても気になっています。先に名前をあげた他市の施設はだいたい視察しましたが、遠足にきた保育園児たちが遊んでいる様子を見て、皆さんが求めているのはこのような施設だと感じました。

また、トレインパークは 3 階に遊べるエリアを設けており、他市の保育園児が遠足で訪れています。ただし、いろいろな施設があるため、大人は有料です。

(出席者④)

雨の日もそうですが、真夏の日にはプールが混んでいて、公園で遊ばせられないということがあります。

(市長)

市内では、松任の「若宮公園こどもプール」と美川の「ウォーターガーデンプール」が無料で利用できますが、これだけ暑いと(屋外での活動となる)水泳は厳しいです。今年の夏の猛暑で、熱中症対策として学校のプール開放は行われませんでした。

◆新しきを取り入れ、良き伝統は守る 意見を出し合い、いろいろな工夫で保育内容の充実を
(出席者④)

私は高校生2人、小学生1人、保育園児1人の子育てをしていて、4人目が公立の保育所に通っています。仕事柄、他の保育所を見る機会がありますが、民営化された保育所では、公立とは異なり、外部から講師を招いてフットサルやダンス教室を行うなど、いろいろな工夫がされています。私の子どもたちの年齢は、上が17歳、下が5歳ですが、上の子が通っていた12年前と、運動会やタベのつどいの内容がまったく変わっていません。地域の盆踊りで、十数年間同じダンスを続けています。民営化された保育所では、若い先生たちが会議で意見を出し合い、参加者が楽しめるように工夫されています。他の公立の保育所も、平成中期から約15年間同じことを続けているように感じます。民営化された保育所の取り組みを参考にして、公立保育所でも内容の充実を図ってほしいです。

保育所でフットサルをしていた子は、小学校に入ってサッカーで県大会上位入賞するなどしています。こうした活躍を見るにつけ、公立の保育所は、なぜ何も変わらず同じことをしているのだらうと思ってしまいます。

(保育こども園課・指導保育士)

公立保育所にも法人保育所にも、独自の伝統や保育方針があります。同じ踊りを続けていることには賛否両論あるとは思いますが、公立においても、子どもたちの興味や流行に応じて新しいものを取り入れつつ、良い伝統は大切に受け継ぎ、体を動かす楽しさや音楽に親しむことを意識して、しっかりと狙いを持って保育に取り組んでいます。公立でもサッカーやダンスを取り入れているところはありますし、現場の保育士は子どもたちに色々な経験をさせようと工夫しながら、一生懸命保育に努めていますので、ご理解いただきたいと思います。

(出席者④)

他の保育所の保育内容に魅力を感じても、近いところしか通わせることができない難しさがあります。

(市長)

現在、小学校や中学校では、コミュニティスクールということで、地域の方々のご意見を伺い学校運営を行っていくという形に変えていっています。保育所においても、保護者の皆様のご意見を伺いながら、地域の特色を生かした体験活動を、法人や公立の区別なく行うことが必要になってくると思いますので、様々な改善点を探っていきたい思います。先ほどのポイント制度も参考にさせていただきますし、ご提案があれば、保護者会などでご提案いただければと思います。市としても、いただいたご意見を真摯に受け止め、少しずつ新しいものを取り入れ

ながら、子どもたちが楽しく、のびのびと育つ環境づくりに努めてまいります。

◆警報発令などの場合、学校と保育園の対応の差で戸惑い 地区内で連携を密に対応を
(出席者⑤)

小学校2年生、年中児の子どもがいますが、大雪警報の発令などがあると、小学校は休校、保育園は登園を控えてほしいなど指示内容が異なるため、両方を休ませるべきか、通わせるべきか戸惑うことがあります。民間の保育園に通わせているため仕方がない部分はあるかもしれませんが、子どもに関することであり、災害の発生も考えられるので、管轄か否かではなく、市が一斉に休校・休園を判断し連絡するシステムにならないでしょうか。

(市長)

白山市は広域なため、災害が起こっても市内全域で統一した対応を行うことは難しい部分があります。例えば、降雪の程度は、白山ろくでは通常の降雪でも、平野部では大変な状態になることがあります。このため、地域ごとの状況を確認、判断した上で、教育委員会が小・中学校へ指示します。保育所は管轄が異なりますが、双方で連絡を取り合い、案内を出す体制を整えています。

(保育こども園課長)

学校と保育所・こども園では、休みについての考え方が少し違います。保育所は主に働く家庭の子どもを預かるため、突然休園にすることが難しく、市内の保育所・こども園を一斉に休園することは、市からの申し上げにくい状況です。地域によって降雪状況や天候は異なるため、各所長や園長が周辺の状況を確認し、危険と判断した場合は公立・法人問わず、対応していただいています。市の指示を待っている間に危険な状況が発生する可能性もあるため、市内全域で統一した対応をとることは難しいです。

(市長)

非常時の子どもの送迎などは学校も保育所も同様ですので、同じ地区内の小学校・保育所・こども園の対応については、できるだけ連絡を取り合い対応したいと思います。大雪などの警報の発令時に、教育委員会が休校を決定する際には、学童保育や、給食を食べさせてから帰宅させるなど、細かな部分も配慮するようにしています。特にコロナ禍では、保育所と学校が連携を密に行っていました。今後も、連携を図っていきたいと思います。

◆交通量の多い道 子どもたちの安全な通学に不安 色々な形で声をあげて
(出席者⑥)

年長児と未満児の子どもが3人いて、来年、子どもが小学校に通うことになるのですが、気になる点があります。現在、イオンモール白山近辺に住んでいますが、近所の道路が抜け道となり交通量が増加し、危険な状況です。近所の小学生は毎朝、バスの待合場所まで歩いていくのですが、そこへ行くまでの道路は朝早くから交通量が多く、危険な場所だと感じています。天候が良い日ばかりではないので、スペースの問題で難しいとは思いますが、危険がなく、安

全に通学できるという安心感が得られると有難いです。

(市長)

白山市では、通学路の危険な箇所を情報共有するために、PTAや町会、学校関係者、市・県の道路管理者、警察が連携して、通学路安全推進会議を設置しています。PTAや町会から挙げられる改善点をこの会議で語り、どのように改善すべきか協議し、通学路の安全対策を実施しています。具体的には、歩道がない危険区域にグリーンベルトを整備したり、信号機や横断歩道の設置について警察に依頼したりしています。気になる点があれば、PTAや町会など、色々な形で声をあげていただきたいと思います。通学路に関しては、特に安全点検をしっかりとやっていますし、改めて現場を確認しまして、危険な場所は改善していかなければならないと思います。

◆短期的な解決よりも、中長期のビジョンをもった対策を

(出席者⑦)

私が住んでいる所はそれほど交通量が多くなく、田舎のほうでゆったり暮らしているので、白山市は住みやすいと感じています。

今回の会議で皆さんが発言されたことは、中長期的な視点での対策が必要だと感じました。短期的な解決も大切ですが、将来的なビジョンを持って対策することはできるのではないかと思います。我々子育て世代は親元から離れていることが多く、地域の支援を受けにくい状況にあるため、行政の力を頼りにされている方も多いのではないかと思います。仮説を立てて、色々な方面から意見を集め、効果的な運営をしてくださると有難いです。

子育ては未来永劫続くものであり、今の自分たちの要望があれば、自分の子どもたちが子育て世代になった時の要望もあります。先ほどの学童の問題についても、建物の増築が一時的な解決にはなるかもしれませんが、後々それが負の遺産になる可能性もあります。皆さんの知恵を出し合って運営していただけると有難いです。

(市長)

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。現在、子育て中の皆さまがどういうことに困っていて、何を感じているのか、ご意見を伺いながら、市の基本理念である「健康・笑顔・元気」に基づき、ビジョンを見直していこうと思っています。今後も、住みたい白山市、そして、住んで良かった白山市、他の人にも勧めてもらえる市を目指していきたいと思っています。今日の会議だけではなく、市長への提案など、さまざまな方法でご意見をお寄せいただければと思います。お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございました。